

phytogeography of Japan. In Distribution maps of flowering plants in Japan II, 59-83. Moran, R. 1971. *Sedum sikokianum* Maxim., a neglected Japanese species. Cactus & Succulent Journ. 43: 147-149. Ogawa, K. & H. Yuasa 1970. Cytogenetic study on subgenus Aizoon, genus *Sedum* in Japan 1. La Kromosomo. No. 82, 2624. Ohba, H. 1982. Crassulaceae. In Y. Satake et al. (ed.), Wild flowers of Japan II. Herbaceous plants—Choripetalae. p. 139-152. Ohwi, J. 1953. Crassulaceae. In Flora of Japan, p. 585-592. Soeda, T. 1944. A cytological study on the genus *Sedum*, with remarks on the chromosome numbers of some related plants. Journ. Fac. Sci. Hokkaido Univ., Ser. V (Bot.), 5: 221-231. Uhl, C.H. & R. Moran 1972. Chromosomes of Crassulaceae from Japan and South Korea. Cytologia 37: 59-81.

* * * *

ヒメキリンソウの染色体数と核型について報告した。染色体数は石槌山の 1 個体と石立山の 8 個体で観察し、ともに $2n=16$ で、小川・湯浅の結果と一致した。 $2n=16$ は、マンネングサ属キリンソウ亜属ではもっとも少ない数であり、この亜属の基本数は $x=8$ と考えられる。染色体の長さは勾配的に変化し、もっとも短い染色体対の短腕にサテライトがあった。動原体の位置は、もっとも短い染色体が端部にあるのを除き、中部か次中部に存在した。ヒメキリンソウは、この亜属中唯一の二倍体種であり、遺存的な種が多く分布する四国の石槌山塊と剣山塊に分布に限られ、遺存的な種と考えられる。

□ 倉田 悟・中池敏之 (編): 日本シダ植物図鑑—6 881 pp. 1990. 東京大学出版会。¥18,000. 今まで何回か紹介した本書の第 6 巻で、ヒカゲノカズラ科・イワヒバ科・ハナヤスリ科・オンダ科など 100 種類が載っている。これで一応予定した 119 属 600 種類が終って 1～6 巻の種類全部の索引が付いているが、第 7 巻は日本産の雑種のすべて、第 8 巻は補遺編ということで完結する予定だという。1979 年に第 1 巻が出て以来 2 年に 1 冊の割で発行されたことになるが、途中で倉田氏が亡くなられた後は中池氏が独り編集に当たられた。もちろん日本中の「日本シダの会」の会員諸氏が、分布図の 1 点も逃さないようにと山野を駆け巡って証拠標本を作り、線画を描き生態写真を撮るなど協力を惜しまなかった功績は絶大であり、これなしにはこのような大きな内容の書物は出来なかっただろうと思われる。最初の計画どおり美事にここまで完成を見たことを祝い多くの方々の努力を称えたい。

(伊藤 洋)